

シリーズ 下水道探訪

東京の足元を流れる下水道は、様々な顔を持っています。
ここでは、下水道に関するいろいろな施設や取組をシリーズでご案内しています。

東京の地下には下水道管が縦横に走っており、23区の下水道管の総延長は約15,800kmにもなります。
そして、私たちの足元には下水道管を点検したり清掃する時などに人が入るためのマンホールがあります。
今回は昔懐かしい街並みとともに様々なマンホールを紹介させていただきます。



1987年11月撮影 日比谷(当時の下水道管の長さは11,766kmでした。)



1987年11月撮影 日比谷



撮影年度不明 新橋赤レンガ通り



1991年6月撮影 多摩川上流処理場(現多摩川上流水再生センター)ふれあいの小道



1983年12月撮影 中央区銀座 五丁目



1983年4月撮影 上野駅16,17番ホーム



1983年12月撮影
品川区南品川 ビルマ大使館前



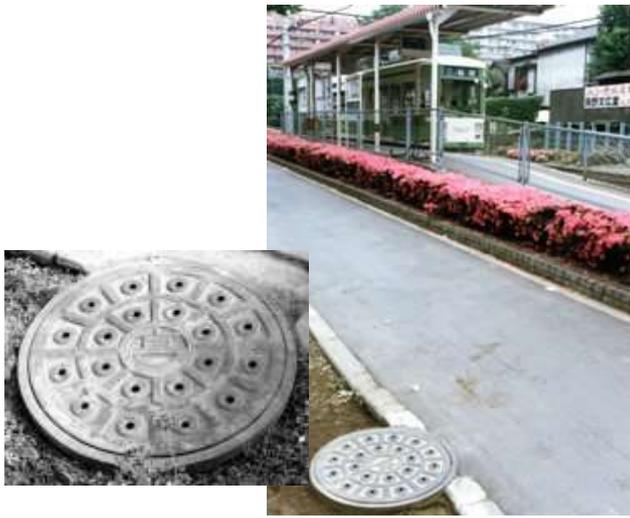
1983年12月撮影 荒川区東尾久



1984年1月撮影 渋谷区千駄ヶ谷



1984年1月撮影 港区西麻布



1987年8月撮影 豊島区高田



1988年1月撮影 荒川区西尾久

懐かしの人孔(マンホール)蓋 ★見覚えのあるマンホールがあるかも^^



足立区竹ノ塚 (雨水用)



足立区竹ノ塚 (汚水用)



千代田区丸の内



昭和42年まで製造



昭和44年から使用開始



3尺の大型鉄蓋



荒川区東尾久



荒川区荒川



足立区千住中居町



中央区銀座



北区王子



新宿区新宿



豊島区高田



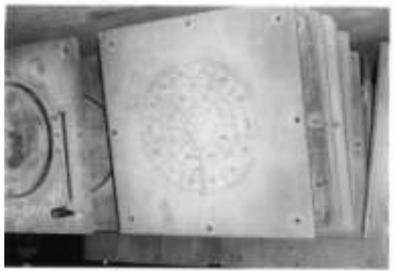
豊島区巣鴨



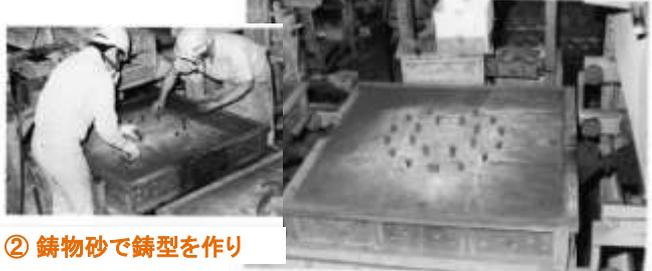
豊島区池袋



マンホールの蓋ができるまでを写真で見よう！



① マンホール蓋の金型です。



② 鑄物砂で鑄型を作り



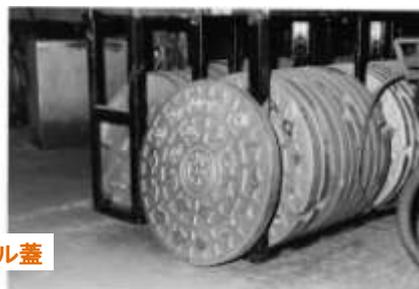
③ 上下の鑄型を重ねます。



⑤ 一気に鑄型に流しこみます。



④ 真っ赤に溶けた鑄鉄を取り出し



⑥ 完成したマンホール蓋

▲ [一覧へ戻る](#)